

人材育成について

(質問) ①人事異動の結果評価はあるか。②昇任試験制度について。③昇任を希望しないことの分析は。④第三者の助言を取り入れたか。⑤40代からの部長就任は。⑥30代での地区市民センター長就任は。

(答弁) ①人事そのものの評価は行っていない。部局長ヒアリングで代替。②昨年以降に議論はない。③分析は行っていない。④第三者の助言などは受けていない。⑤年齢だけで判断せず能力などを見極め、人材登用に努める。⑥人材育成の観点から重要と考える。

その他の質問 ○社会災害に対するリスクマネジメント



消防団施設整備について

(質問) 消防団員は、非常勤特別職の地方公務員である。しかし、消防団施設は市所有8施設、各自治会所有16施設であり、その維持管理は、市所有施設は全額公費であるが、自治会施設は修繕や改修に対する補助となっている。本市が責任をもって維持管理すべきではないか。

(答弁) 消防団は地域防災力の中核として重要な役割を果たしている。消防団施設も地域防災を支える重要な施設であり、補助要綱の見直しや施設の市有化を検討し、適切な維持管理を行っていききたい。

その他の質問 ○こども誰でも通園制度



児童発達支援事業所と公定支援

(質問) 近年、物価高騰や人材不足により障害福祉サービス事業所の経営は厳しさを増している。社会福祉施設はなくてはならない重要な社会資源であり、支援の質の低下やサービス継続への影響が懸念されるが、市の認識は。

(答弁) 障害福祉サービスの持続可能性を確保することは重要な責務であると考えている。担当者連絡会で市内の事業所と課題の共有を図っており、障害者相談支援センターあいと連携し、報酬改定や処遇状況を把握し、必要に応じて国へ改善などを求めている。

その他の質問 ○道路交通法改正



日常生活における地域課題について

(質問) 鈴鹿市独自の移動販売パートナーズ制度、あるいは認定制度の導入について伺う。

(答弁) 西部地域を中心に移動販売や地域づくり協議会による買い物支援が行われている。奈良県生駒市の移動販売等支援パートナーズ制度は、地域と事業者とのつながりづくりに向けて有益な取り組みであると認識しており、今後も地域の共助による買い物支援などの取り組みの継続に向けて支援などを強化する。また、他市町の先進事例の動向を注視していく。

その他の質問 ○地域公共交通 ○スポーツを軸としたまちづくり



警察・自衛隊との連携強化

(質問) 犯罪傾向の複雑化や災害の激甚化など地域リスクが高まる中、警察・自衛隊との連携強化が必要と考える。生活・交通安全、情報共有、大規模イベント対応、災害時の危機管理体制における市の考えや取り組みを問う。

(答弁) 初動対応の迅速化のため、警察OBを関係部局に配置し、連携強化・充実を図っている。鈴鹿警察署とはF1開催の前にテロ対策訓練も実施。災害現場では計画や制度だけでは対応できない課題も生じるため、自衛隊とは共同訓練や意見交換を継続し、より実践的で強固な連携体制の維持・強化に努めたい。



公園管理について

(質問) 弁天山公園や鈴鹿フラワーパークには噴水や小川のような、暑さを和らげる施設が整備されているなど、熱中症対策が施されている。そこで、桜の森公園の暑さ対策として熱中症予防にも効果のあるミストシャワーの設置を提案したい。

(答弁) ミストシャワーについては、今年度、試験的に桜の森公園のちびっこ広場の中にあるあずまやに設置し、効果を見て今後、他の公園についても検討していく。

その他の質問 ○こどもたちの声を聞く機会 ○下水道事業

